

グリメピリド錠 0.5mg/1mg/3mg「EMEC」

を服用される方へ

糖尿病のお薬が処方されています。
危険な低血糖を起こすことがありますので、予防と処置法に
十分注意してください。この薬を飲んでいることを
必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。



こちらのお薬は、患者様のお薬代の負担が軽減される
ジェネリック(後発)医薬品です。

1 低血糖とは？

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が
起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、
いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。
人によって症状は異なりますが、空腹時に起こり、糖分をとると
急に良くなるのが特徴です。

低血糖がひどくなると、けいれんを起こしたり、意識を失うこと
もあります。



空腹感、力のぬけた感じ 発汗・動悸 頭が痛い 意識を失う 手足のふるえ

裏面もかならず
お読みください。



グリメピリド錠 0.5mg/1mg/3mg「EMEC」

を服用される方へ

糖尿病のお薬が処方されています。
危険な低血糖を起こすことがありますので、予防と処置法に
十分注意してください。この薬を飲んでいることを
必ず家族やまわりの方にも知らせておいてください。



こちらのお薬は、患者様のお薬代の負担が軽減される
ジェネリック(後発)医薬品です。

1 低血糖とは？

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力のぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が
起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、
いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。
人によって症状は異なりますが、空腹時に起こり、糖分をとると
急に良くなるのが特徴です。

低血糖がひどくなると、けいれんを起こしたり、意識を失うこと
もあります。



空腹感、力のぬけた感じ 発汗・動悸 頭が痛い 意識を失う 手足のふるえ

裏面もかならず
お読みください。



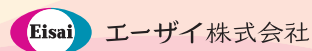
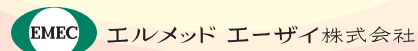
2 低血糖症状があらわれたら

1. 低血糖症状は危険な状態ですから、このようなことが起こらないように注意し、軽いうちに治してしまわなければなりません。低血糖になっても軽いうちは糖分をとると治ります。日ごろから袋入りの砂糖(スティックシュガーなど)を3~4個持ち歩き、すぐその場でとることが必要です(10~20g程度が目安)。決してがまんしてはいけません。
2. 本剤のほかに、アカルボース(商品名:グルコバイなど)、ボグリボース(商品名:ベイスンなど)、ミグリトール(商品名:セイブル)のいずれかをいっしょに服用している場合には、砂糖ではなくブドウ糖をとってください。これらのお薬は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、ブドウ糖(5~10g)もしくはブドウ糖を含む飲料(150~200mL)をとってください。なお、糖分ゼロ・カロリーゼロの飲料はブドウ糖を含みませんのでご注意ください。
3. 上記の処置をしても低血糖症状の改善が見られないときには、すぐに医療機関を受診してください。
4. 低血糖が起こっていることをご本人が気がつかなくなったりすることがありますので、ご家族やまわりの方にも低血糖になった時の対応を頼んでおきましょう。

3 低血糖の予防には

糖尿病では勝手にお薬の量や飲み方を変えるような自己流のやり方は危険です。お薬の量や飲み方は、主治医の指導を正しく守ってください。また、食事の時間を極端に変えることや、激しい運動、空腹時の運動は避け、食事療法・運動療法は決められたことをきちんと守りましょう。

ご自分の処方されているお薬の内容をよく理解しておくことも大事です。主治医の先生や薬剤師に確認されることをお勧めします。



CODE GLM (2)003A
2018年3月作成

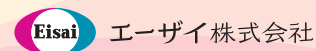
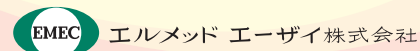
2 低血糖症状があらわれたら

1. 低血糖症状は危険な状態ですから、このようなことが起こらないように注意し、軽いうちに治してしまわなければなりません。低血糖になっても軽いうちは糖分をとると治ります。日ごろから袋入りの砂糖(スティックシュガーなど)を3~4個持ち歩き、すぐその場でとることが必要です(10~20g程度が目安)。決してがまんしてはいけません。
2. 本剤のほかに、アカルボース(商品名:グルコバイなど)、ボグリボース(商品名:ベイスンなど)、ミグリトール(商品名:セイブル)のいずれかをいっしょに服用している場合には、砂糖ではなくブドウ糖をとってください。これらのお薬は砂糖の消化や吸収を遅らせますので、ブドウ糖(5~10g)もしくはブドウ糖を含む飲料(150~200mL)をとってください。なお、糖分ゼロ・カロリーゼロの飲料はブドウ糖を含みませんのでご注意ください。
3. 上記の処置をしても低血糖症状の改善が見られないときには、すぐに医療機関を受診してください。
4. 低血糖が起こっていることをご本人が気がつかなくなったりすることがありますので、ご家族やまわりの方にも低血糖になった時の対応を頼んでおきましょう。

3 低血糖の予防には

糖尿病では勝手にお薬の量や飲み方を変えるような自己流のやり方は危険です。お薬の量や飲み方は、主治医の指導を正しく守ってください。また、食事の時間を極端に変えることや、激しい運動、空腹時の運動は避け、食事療法・運動療法は決められたことをきちんと守りましょう。

ご自分の処方されているお薬の内容をよく理解しておくことも大事です。主治医の先生や薬剤師に確認されることをお勧めします。



CODE GLM (2)003A
2018年3月作成